



創始者ベーデン・パウエル生誕150周年＝世界スカウト運動創始100周年 新訳版からB-Pの教えをきく

世界スカウト運動創始 100 周年にあたる本年は、創始者ベーデン・パウエル (B-P) の生誕150 周年にあたる年でもあります。B-P の誕生月にもあたる今月は、昨年5月に日本連盟から新訳版が発行された『隊長の手引 Aids to Scoutmastership』から、創始者が世界のスカウト指導者に向けて書いた言葉のいくつかをご紹介します。

B-P
隊長になろうとする人への安心感を与える前置きの言葉として、よい隊長になるには何でも知っている多芸多才な人でなければならないという、よくある誤解を否定したい。少しもそんなことはない。隊長はただボーイマンになることができればよい。(中略) 隊長は校長、軍隊の指揮官、聖職者、指導員のいずれにもなる必要はない。必要なことは野外を楽しんだり、少年の夢に共感したり、また信号法や絵を描くこと、自然研究や開拓作業のいずれであろうと望ましい方向に少年たちを教えてくれる他の成人を見つけるという能力だけである。

B-P
少年たちを6人から8人の班に編成し、それぞれの責任を持った少年指導者の下で別々の単位として少年たちを訓練する、これが立派な隊を作る秘訣である。
班は作業のためであろうと、遊びのためであろうと、規律のためであろうと、義務のためであろうと常にスカウティングの単位である。
性格訓練の計り知れないほど貴重な第一歩は、一人ひとりに責任を持たせることである。これは、班を責任を持って指揮する班長を任命することで直ちに得られる。班の一人ひとりの少年の性質をしっかりと捉え、伸ばすことは班長しだいである。これは大変な注文のよう思われるが、やってみればうまくいくものである。

B-P
隊長の仕事は、ゴルフや長い柄の鎌を使う草刈りやフライフィッシングのようなものだ。「力む」とうまくいかない。気楽におざなりにスイングするような程度でも駄目だ。でも、スイングはしなければならない。じっと立っただけでは何の役にも立たない。進むか、休むかいずれかである。さあ、進もう、ほほ笑みを浮かべて。

B-P
スカウト訓練は上下、貧富のあらゆる階層の、また耳や口、目が不自由な身体的障害を持つ人たちにとっても魅力的である。スカウティングは学びたいという願望を生じさせるのである。スカウティングの活動の原則は、少年たちの考え方の研究により、少年は指示されるのではなく、自分自身で学ぶように促すものだというに基づいたものである。

B-P
(前略：パトロール・システムについて)
しかし、このシステムから第一級の成果を得るには、少年指導者に全面的な自由裁量を与えねばならない。部分的な責任しか与えないなら、部分的な成果しか手にできないだろう。このシステムの主な目標は、少年たちに責任を負わせることで隊長の面倒を少なくしようということではなく、むしろこれが性格を伸ばすための手段としては最も良い手段だからである。

B-P
隊長の仕事は(それは、非常に面白いものだが)、少年一人ひとりの中にあるものを引き出し、見つけてやることである。そして次に、そのよい面を見逃さず、悪い面を取り除いて伸ばしてやることである。最悪の性格と言われる人にも5パーセントはよい面があるものだ。それを見つけてやり、それを80%にも90%にも伸ばしてやることは楽しみである。これこそ、若者の心に何かを指図することに代わる教育である。

B-P
新鮮な空気があるかないかで、体操の成果の半分は決まる。新鮮な空気は可能なきは鼻からはもちろん皮膚からもよく吸収することができる。そう、戸外こそ成功の鍵である。できるだけ野外にいる習慣を身につけること、それがスカウティングが求めているものである。(中略) 我々の目標は少年たちを室内から引き離して、野外を彼らにとって魅力的なものにすることである。(中略) 我々はクラブでも日曜学校でもなく、森の学校である。我々は身体のためであろうと魂のためであろうと、スカウトのためであろうと隊長ためであろうと、健康のためにもっと戸外に出て行かねばならない。

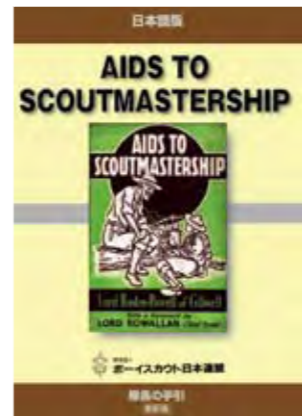
ギルウェルでクードゥーホーンを吹くB-P。
クードゥー：シマカモシカの角を用いた角笛で、ブラウンシー島での実験キャンプをはじめ、ウッドパジツトレーニングのコースやアクティビティの開始の合図で吹かれたという。



B-P
あらゆる学びの場の中で、キャンプは少年たちに望ましい性格の属性を身につけさせるには間違いなく最高のものである。(中略) キャンプは規律、問題を解決する能力、工夫する力、自立心、ハンドクラフト、ウッドクラフト、ボートクラフト、チーム感覚、自然の知識や知恵など、これら全てを理解ある隊長の愉快で思いやりのこもった指導の下で吸収することができるのである。キャンプ生活の一週間は、集会室で理論的なことを教えてもらう(これはこれで価値があるだろう)6か月に値する。

B-P
(前略) 様々な種類の趣味やハンドクラフトの上達に対するバッジが技能の訓練によりきかけを与える。我々が初歩的な水準でできるだけ多くのものを提供するねらいは、あらゆるタイプの少年たちに様々な作業をやってみさせるようにすることであり、観察力に優れた隊長は、それぞれ少年が特に関心を示すものをすばやく見極め、それに応じて励ましてやることである。そして、これこそがその少年の個性を伸ばし、その人生での成功に向けての歩みをスタートさせる最良の道である。

B-P
無私という犠牲を払って「つとめ」を果たし、少年たちの人生に異なった状況をもたらすような性格の形成に手を貸すことから得られる満足感は、文字ではうまく書き表せないような報いをもたらしてくれる。(中略) 少なくとも国のために何かを成し遂げたという確固たる満足感をもたらしてくれる。これこそ、「スカウター」と呼ばれる、ボーイスカウト運動の中で活動する人たちが、隊長、コミッショナー、委員、インストラクター、組織の拡大に携わる人、事務担当者全ての心意気である。



この『隊長の手引』は、『スカウティング・フォア・ボーイズ』と併せて指導者が読むべき本として、その序文の中でも以下のように紹介されています。
—よく思うことだが、我々はあまりに多くの文献や指導書を持っている。我々が必要とするものは全て、この本と『スカウティング・フォア・ボーイズ』の中にある。それ以外のことは、B-P が言うように「隊長の判断に任せ」ばよい。(イギリス連盟総長 ロウオーラン卿の序文より) —
今回ご紹介した言葉はそのほんの一部。21世紀を迎えた今なお新鮮な示唆に満ちた本書。全ての成人指導者にぜひ一読いただきたい一冊です。
日本連盟発行 品番65581 定価700円(税込)

B-P 著作物一覧

- 印:日本連盟資料センターに原書があるもの
- 印:同じく原書および日本語訳があるもの
- ◎印:日本語訳をスカウト用品で扱っているもの
- 1884 Reconnaissance and Scouting (偵察と斥候術)
- 1885 Calvary Instruction (騎兵教範)
- 1889 Pig-Sticking or Hog-Hunting (豚突き、または猪狩り)
- 1896 The Downfall of Prempeh (プレムベの没落)○
- 1897 The Matabele Campaign (マタベレの戦い)
- 1899 Aids to Scouting for N.C.O.s and Men (下士官と兵士のための斥候術の手引き)○
- 1900 Sport in War (戦争におけるスポーツ)
- 1901 Notes and Instructions for the South African Constabulary (南アフリカ警察隊のための指導要領)
- 1907 Sketches in Mafeking and East Africa (マフェキングと東アフリカのスケッチ)
- 1908 Scouting for Boys (スカウティング・フォア・ボーイズ)●◎ (ただし資料センター所蔵は1915年の第7版より)
- 1909 Yarns for Boy Scouts (ボーイスカウトのための冒険談)
- 1910 Scouting Games (スカウティング・ゲーム)○
- 1912 Handbook for Girl Guides (妹アグネスとの共著。ガールガイドのためのハンドブック)
- 1913 Boy Scouts Beyond the Seas (海外のボーイスカウト)○
- 1914 Quick Training for War (戦争のための緊急訓練)○
- 1915 Indian Memories (インドの思い出)○
- 1915 My Adventure as a Spy (スパイとしての私の冒険)○ (1924にThe Adventure of a Spyとして再版)
- 1916 Young Knights of the Empire (帝国の若き騎士たち)●◎
- 1916 The Wolf Cubs Handbook (ウルフ Cubs ハンドブック)●
- 1918 Girl Guiding (ガール・ガイディング)○
- 1919 Aids to Scoutmastership (隊長の手引き)●◎
- 1921 What Scouts can Do (スカウトが成し得ること)○
- 1921 An Old Wolf's Favorites (ある老ウルフのお気に入り)○
- 1922 Rovering to Success (ローバーリング・ツウ・サクセス)●◎
- 1927 Life's Snag and How to Meet Them (人生の障害とその対応の仕方)○
- 1929 Scouting and Youth Movements (スカウティングと青少年運動)○
- 1933 Lessons from the Varsity of Life (人生という大学からの教訓)○
- 1934 Adventure and Accidents (冒険と事故)○
- 1935 Scouting Round The World (世界をめぐるスカウティング)○
- 1936 Adventuring to Manhood (一人前の男への筋路)○
- 1937 African Adventures (アフリカでの冒険)○
- 1938 Birds and Beasts of Africa (アフリカの鳥獣)○ (日本語版5月刊行予定)
- 1939 Paddle Your Own Canoe (自分のカヌーは自分で漕げ)●◎
- 1940 More Sketches of Kenya (ケニアのスケッチ第2集)



ブラウンシー島 (イギリス・ドーセット州) 1907年8月1日～9日、20人の少年とベーデン・パウエルによる実験キャンプが行われた。